



徳嶺勝信

1月のベトナムはテトー（旧正月）を控え日本で言う師走の時季を迎える。

旧正の話題としては中国の春節が有名だが、ベトナム人にとっても一年で一番大事な行事だ。ベトナムでは日本と違い祝日が非常に少なく長期で休みがとれるのはテトー時期くらいである。企業によって異なるが、今年のテトー休みは2月6日～14日の9日間が最も多く、中には16日間という企業もある。では、テトー休みで何をするかというとほとんどの人が故郷への里帰りだ。たくさんのお土産を抱えて帰り、家族、親族、友人一同で旧正月を祝い明かす。

大都市のホーチミンには地方から多くの人が集まっている。その人たちが一同に故郷を目指し大移動を開始する。現在は飛行機での移動も多くなったが電車や車、バスなどを使い、最大2日かかりの移動も珍しくはない。大掛かりの移動なので中には休みが終わっても帰ってこない人も多々いる。

テトー時期に開いているベトナム

旧正月 古里で長期休暇

ベトナム

ム企業はほとんどない。開店している飲食店も最近は少し増えてきたが少数。頼りになるのは日系のコンビニエンスストアだ。ファミリーマート、サークルK、サンクスなど非常にありがたい存在だ。イオンも年中無休での営業だが、ベトナム人のテトー出勤対策に頭を痛めていると聞いている。

日本と一緒に少しずつ生活や習慣の流れが変わりつつあるのでテトー時期での大移動も変わってくるかもしれないが、人やバイク、車が少なくなったホーチミン市内で過ごすのも違った発見がある。

昨年末に東南アジア諸国連合（ASEAN）経済共同体がスタートした。ASEANに加盟する10カ国が貿易自由化や市場統合などを通じて経済成長を目指す経済連携の枠組みである。域内人口は欧州連合（EU）を上回る計6億2千万人で、域内総生産が2兆5千億ドル（約300兆円）に達する巨大な経済圏が本格始動した。

すでに域内ではモノの往来が盛んになっている。2014年の域内貿易額は6083億ドルと、10年間で2・3倍に増えた。拡大するインフラ整備も大きな商機となる。ASEANでは30年までに3兆3千億ドルものインフラ投資が必要になるという試算も出た。

（ベトナムJES代表）

今回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。